



開校2年目ナブルの小学校、仲良し4人組



2013年4月25日発行

NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会
 (英文名略称・HANDS)
 本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11
 TEL & FAX:045-500-9151
 E-mail: hands-mindanao@nifty.com
<http://homepage3.nifty.com/hands/>
 郵便振替口座 00210-5-72693
 (加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会

ルーツは同じ、二つのパートナー、CMIP、SCMSI を通じての教育支援

今年、私たちの活動は、特に教育支援の分野で大きな変化があります。71号でお知らせのように、5月末に活動を終了するチボリ国際里親の会(JOFPA)の事業の一部を引き継ぐためです。

6月以降も支援を希望する会員数について、1月のうちに JOFPA に確認しました。暫定数としていただいた200人は、現会員実数の半分以下です。支援額の激減は避けられません。

現地も早めの対策をとれるようにと、2月中旬、学校法人 SCMSI に支援可能額を提示しました。ほどなく、代表のガンダムさんから返事がきました。非先住民族の生徒もいて、授業料収入が見込めるカレッジ1校と、政府補助金のあるハイスクール2校に対し、海外支援に依存する小学校6校すべての継続は難しく、レイクセブ中心にある3校を残し、町域外の、どちらかといえば辺境の教育を支えていた3校の閉鎖を示唆するものでした。

一方、CMIP からは、予定通りキアミ校を閉鎖し、代わりに、バンリに学校を開設するという知らせが入りました。キアミ橋付近の護岸工事の完了で、低学年の子どもも、全員、安全に公立のキナム校に通えるようになったというものです。

ナブル鎌ヶ谷小学校から、さらに3時間先にあるバンリでは、イトク神父と父母はすでに手作りの教室作りを始めたそうです。(関連記事 P3)

辺境へ、辺境へと教育や医療支援の対象を拡大する CMIP と、辺境の3校閉鎖を決めた SCMSI。二つのミッションのルーツは同じです。

約50年前、伝統的首長の代表マフォークさんがビラーン民族支援始めていたパッションIST修道

会の CMB (CMIP の前身) を訪ねて、ティボリ民族への支援を依頼したのが SCMSI の始まりです。

まずは欧米の支援が入り、1980年には「チボリ国際里親の会」が活動を開始しました。この日本をはじめとする長期にわたる海外からの支援で、レイクセブ町と隣接する地域のティボリ民族は、現 SCMSI 代表のガンダムさんに象徴されるように、町の内外で活躍する人材が育ち、初等教育普及の面でも大きな成果を上げました。

ともにカトリック教区の管轄下にありますが、CMIP が今も修道会の神父を長とするのに対して、SCMSI に、辺境の布教と支援というミッションの使命はありません。むしろ建学の精神であるティボリ民族の伝統を受け継ぎ、経済的に自立できる質の高い私学を目指す SCMSI にとって、今回の辺境の3校閉鎖は、苦渋の決断ではあったとしても、予想されたことではありました。

先月入手の SCMSI の機関紙・創刊号「レムルナイ(ティボリ語の理想郷)」に、SCMSI の伝統文化教育を正課とするカリキュラムが全国的に高く評価され、今年2月、少数民族や先住民族のカリキュラム作成に当たる政府派遣の調査団の訪問を受けたという記事があります。

しかし、SCMSI 校に学ぶ子どもの多くが、未だに貧しい家庭環境にあることに変わりません。公立に在籍するティボリの子どもの中でも、教材費が払えずに中退するものが少なくないと聞きます。

新学期を控えて、すべて子どもが、少なくとも初等教育を終えることができるように、二つのミッション CMIP, SCMI それぞれとの連携を図ってまいります。引き続きご協力をお願いいたします。(山崎)